

評価細目の第三者評価結果（高齢分野）

生活支援の基本

※「選択してください」をクリックしてください

特養1-①、通所1-①	第三者評価結果
利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している。	A
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>利用者のこれまでの生活習慣を大切にするために、法人独自に作成した100通りエピソードシートを使って、家族に分かる範囲で記入を依頼し、その情報から本人の趣味や嗜好、生活リズム、こだわり等を理解して支援をしている。多様のボランティアを受け入れ、日々の生活にボランティアを活用し、一人ひとりに応じた過ごし方ができるよう工夫している。</p>	
改善できる点/改善方法：	
訪問1-①	第三者評価結果
利用者の心身の状況に合わせ、自立した生活が営めるよう支援している。	評価外
<p>良い点/工夫されている点：</p>	
改善できる点/改善方法：	
特養1-②、通所1-②、訪問1-②	第三者評価結果
利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。	A
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>職員は、1日1度はフロアの全利用者とは話し、コミュニケーションを図ることを目標としている。日々の生活の中から、利用者の思いや希望を自然に聞き出している。また、接遇研修では言葉遣いなど、自分自身の対応を振り返る機会を設けている。意思疎通が困難な利用者には、対応時間を増やし利用者の思いを推測しながら情報を収集し、その人に合ったコミュニケーションの取り方を職員全員で共有している。</p>	
改善できる点/改善方法：	

権利擁護

特養2-①、通所2-①、訪問2-①	第三者評価結果
利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	A
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>身体拘束、虐待防止について、入居時に重要事項説明書の内容を基に説明している。職員には利用者の権利擁護についての意識と理解を深めるために、外部講師を招いて勉強会を実施している。身体拘束適正化検討委員が毎月各フロアを巡回し、権利侵害の早期発見に努めている。又、職員用の目安箱を設置し、職員の無意識なスピーチロックや気になる言動等を出し合い、その内容を会議で検討し、職員に周知している。職員同士で注意喚起が行える職場環境をめざしている。</p>	
改善できる点/改善方法：	

利用者の快適性への配慮

特養 3-①、通所 3-①	第三者評価結果
福祉施設・事業所の環境について、利用者の快適性に配慮している。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>清掃担当の職員が配置されており、週 2 回以上、居室を清掃し、5S運動（整理、整頓、清掃、清潔、率先）の実践や、家族会と連携しながら、普段できない箇所の清掃も行い、常に利用者に清潔で快適な環境を提供している。エアコンの温度設定は、利用者と相談しながら調整し、適切に換気も行っている。施設内の床と腰壁は県産の木材を活用し、落ち着いた雰囲気と明るさがある。各居室は、個々の好みの生活雑貨やクラブ活動で作成した作品などが飾られている。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	

利用者の状況に応じた支援

特養 4-①、通所 4-①、訪問 3-①	第三者評価結果
入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>一般浴槽、チェア式、ミスト式の機械浴がある。浴槽の選択と手順は、利用者の心身の状況に合わせて随時、対応を行っている。入浴拒否の利用者には支援方法を工夫し、入浴予備日を設けて対応している。また、季節に合った入浴剤を使用し利用者に喜ばれている。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	
特養 4-②、通所 4-②、訪問 3-②	第三者評価結果
排せつの支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>各フロアに12か所のトイレを設置し、いずれも個室トイレで羞恥心に配慮されている。利用者個々の排泄パターンを把握し、その人に合った方法で支援している。おむつかぶれが発生した時には直ぐにパッドの見直しとおむつやパンツをより適切なものに変更している。トイレには立ち上がりバーとサイドバーの設置があり、利用者の状態によっては、便器の前に補助椅子や前かがみ台等を設置し、安全に排泄ができる環境に配慮している。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	
特養 4-③、通所 4-③、訪問 3-③	第三者評価結果
移動支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>利用者や職員の身体的負担軽減のために、北欧式トランスファーテクニックを導入している。その技術を現地デンマークで学んできた職員が介護現場で実践指導をし、介護者、利用者双方にとって安全安楽な移動を実施している。職員は、利用者の移動に不安があれば、すぐに指導を受けられる環境にある。また作業療法士による機能訓練では、利用者の残存機能の維持のため、自力での移動を支援している。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	

食生活

特養5-①、通所5-①、訪問4-①	第三者評価結果
食事をおいしく食べられるよう工夫している。	A
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>旬なものを取り入れて季節感を味わいながら楽しく食べられるよう、バイキング形式で提供したり、食事形態がミキサー食、ソフト食の利用者にもおいしく食べられる工夫がされている。配膳直前まで、温かいもの・冷たいもの等、食事の適温に配慮して提供している。また、調理室への入室はインターホンを通して要件を確認し、出入りも衛生管理の一環で取り組んでいる。</p>	
改善できる点/改善方法：	
特養5-②、通所5-②、訪問4-②	第三者評価結果
食事の提供、食事介助を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	A
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>月1回、多職種で利用者一人ひとりの咀嚼力、嚥下状態を観察するために、フロアを巡回している。その結果で検討や見直しを行い、状態にあった食事提供になっている。食器や自助具も適切なものを用意し自己摂取につなげている。毎日の食事や水分摂取量を把握し、その情報は多職種で共有している。また、食事前の嚥下体操の実施や、誤嚥しないように食事時の姿勢保持にも努めている。</p>	
改善できる点/改善方法：	
特養5-③、通所5-③、訪問4-③	第三者評価結果
利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。	A
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>歯科衛生士の資格を持つ職員5名を各フロアに配置し、毎食後の口腔ケアを励行し、口腔内管理に力を入れている。介護職員がその人に合った口腔ケアの支援ができるように、歯科衛生士による演習研修を実施している。歯科機器の導入で、施設内での歯科治療が可能であり、往診希望にも速やかに対応している。</p>	
改善できる点/改善方法：	

褥瘡発生予防・ケア

特養6-①、通所6-①、訪問5-①	第三者評価結果
褥瘡の発生予防・ケアを行っている。	A
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>3か月毎に褥瘡アセスメントを実施し、褥瘡発生時には、毎月アセスメントを実施している。ベッド上での体位交換や椅子上での除圧状況、食事量、皮膚湿潤等多職種で総合的に評価し、改善に取り組んでいる。体圧測定器を使った適切なポジショニング方法や、栄養状態も栄養士に相談し予防ケアに努めている。入浴と併せて清拭も取り入れ、皮膚状態の把握と清潔保持に努めている。ポジショニングが必要な人にはベッド脇にその方法を絵にして表示し、職員間で統一したケアに取り組んでいる。</p>	
改善できる点/改善方法：	
褥瘡者の経過が写真等で一目で分かるようにされるとよい。	

介護職員等による喀痰吸引・経管栄養

特養 7-①、通所 7-①、訪問 6-①	第三者評価結果
介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制を確立し、取組を行っている。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>喀痰吸引の必要がある人はショートステイ利用者にいるが、入居者で必要な人は現在いない。しかし、日勤・夜勤の業務中、1名は必ず吸引ができる職員が勤務して対応できる状態にある。今後もその体制を維持するよう努力していく。また、喀痰吸引の技術の維持研修も重ねている。</p>	
改善できる点／改善方法：	

機能訓練、介護予防

特養 8-①、通所 8-①、訪問 7-①	第三者評価結果
利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>作業療法士の職員が、個々の希望や状況に合わせた計画を立て、マンツーマンで機能訓練を行い、3ヵ月毎のモニタリングで常に適切で有効な訓練を実施している。集団訓練もラジオ体操、バランスボール体操を実施している。月ごとにテーマを決めた活動を行い、それに必要な買い物に行くことも歩行訓練と捉え、利用者の意欲向上に繋げている。また、日常生活の中で積極的に動くことを促し機能維持に取組んでいる。</p>	
改善できる点／改善方法：	

認知症ケア

特養 9-①、通所 9-①、訪問 8-①	第三者評価結果
認知症の状態に配慮したケアを行っている。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>施設職員である認知症介護指導者が、採用2年目までの職員に認知症基礎研修を実施し、他職員も県の認知症ケア研修に積極的に参加し、認知症を理解し業務に携わっている。利用者の症状を家族に報告し、必要に応じて精神科医と連携して適切な支援につなげている。本人の気持ちを大切にしたい実践をするには、職員一人で抱えるのではなく、チームとなって対応する姿勢で認知症ケアに取り組んでいる。</p>	
改善できる点／改善方法：	

健康管理、衛生管理

特養 10-①、通所 10-①、訪問 9-①	第三者評価結果
日常の健康管理が適切に行われている。	B

<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>各フロアに看護師が配属されており、毎朝、カンファレンスを開き、利用者の健康状態を報告している。福祉ソフトを活用して毎日のバイタルチェック、食事摂取量、排せつ状況等を記録し、月間データとして分かるようになっている。</p> <p>利用者の定期的な健康診断やインフルエンザ、肺炎球菌の予防接種を実施している。</p> <p>看護師不在時には介護職員が対応しているが、職員の経験や知識によって対応に差があり、どの職員でも不在時の対応ができることを検討している。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p> <p>今の看護記録だけではなく、介護職員の医療基本知識の向上に取り組み、利用者の健康状態や医療、服薬情報等を網羅した利用者基本情報を作成し、看護と介護の連携を密に行いながら、責任者を明確にした情報発信の体制づくりにも期待したい。</p>	
特養10-②、通所10-②、訪問9-②	第三者評価結果
必要な時には、迅速かつ適切な医療が受けられる体制が整備されている。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>家族には利用者の日々の体調を、福祉ソフトで作成したデータで毎月報告している。異常時には、家族へ連絡し協力医療機関との対応を迅速に行っている。</p> <p>また、訪問医療や夜間の医師との連携体制も出来ている。急変時の緊急対応マニュアルが整備されている。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	
特養10-③、通所10-③、訪問9-③	第三者評価結果
感染症や食中毒の発生予防を行っている。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>施設内日常清掃は業者に委託し、毎日、共同スペースの清掃や手すりの消毒を実施している。居室掃除は、週2回、清掃担当職員が担い、さらに新型コロナウイルス感染対策の一環で、共有スペース以外の手すりも朝昼夕の1日3回実施し、感染症予防に努めている。</p> <p>制服はないが、業務用の衣類に着替え、菌を持ち込まない、持ち出さないことを励行している。職員の体調管理にも努めている。感染症別にマニュアルが整備されており、新型コロナウイルス感染症対応のマニュアルも作成されている。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	

終末期の対応

特養11-①、訪問10-①	第三者評価結果
利用者が終末期を迎えた場合の対応の手順を確立している。	A
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>終末期は、家族、職員とカンファレンスを行い、今後の方向性を確認しながら、ケアプランを立案している。利用者と家族が、満足のいく最期を迎えられるよう職員で支援している。家族が宿泊できる部屋もある。終末期対応を行った後は、取組の振り返りをし、フロアリーダーが家族の思いを報告し、職員を労うと共に、精神的ケアのフォローも行っている。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	

家族との連携

特養12-①、通所11-①、訪問11-①	第三者評価結果
利用者の家族との連携を適切に行っている。	A
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>月に1度、福祉ソフトを活用した生活データとともに最近の様子を担当職員が文書化して伝えている。体調の変化時はその都度電話で知らせている。家族会が充実しており、利用者、家族、職員と交流できるようにし、遠方であり面会がない家族には、写真を送付し現状の理解をしてもらう努力をしている。</p>	
<p>改善できる点/改善方法：</p> <p>家族からの電話対応についてはホワイトボードを活用し対処しているが、トラブルを回避するためにも記録として残すことをお勧めしたい。</p>	

安定的・継続的なサービス提供体制

訪問12-①	第三者評価結果
安定的で継続的なサービス提供体制を整えている。	評価外
<p>良い点/工夫されている点：</p>	
<p>改善できる点/改善方法：</p>	